

東京の教育

第五十九回日本教師会教育研究大会

佐藤 健 二

今年八月三日(土)四日(日)、岐阜県教育懇話会主管、岐阜市教育委員会後援で、岐阜駅に直結するハートフルスクエアGで右大会が開催された。三十五度を超える猛暑の中、三十名弱の参加者であった(東京からは三名)が、「新しい時代を切り拓く国民教育の在り方を求めて」といふ主題の下に、二日間に亘つて熱心に研修を行った。詳細は、「ぎふの教育」に譲ることにして、私の方では、簡単に感想を述べておきたい。

「主題設定の趣旨」にも書いてあるやうに、来年度から小学校で新学習指導要領が全面实施される。その中で、私が危惧してゐるのは「英語」である。来年度からは三・四年生が年三十五時間の「外国語活動」で主に担任が指導し、五・六年生は新たに教科としての「英語」となり、教科書を用ゐて年七十時間、担任と専任教員が担当することになる。担当する教員の負担は想像に余りあるが、何が一番問題なのか余り伝はつてこない。今回の大会で私が聞きたかつたのは、このやうな問題を抱へた現場の先生の生の声であつた。

道徳の発表は若くて元気のよい先生の発

復刊第十六号

東京都教師会発行

(事務局) 横浜市区築区茅ヶ崎南四ノ十四ノ一ノ三二〇

表で、その発表の巧みさに感心させられたが、このところ大会発表の内容が道徳に偏り、今述べた英語や、歴史といった教科からの発表がないのが寂しい。今後の課題と思はれる。

来年度は、関西地区の主管で行はれるが、オリンピック開催に伴ふ宿舍の問題があり、時期を十二月にすることが総会で了承された。一言申し添へておく。

最近の朝鮮情勢から

黒羽 秀夫

研修会の後、各位との懇談の中で、話題が半島をめぐる時事テーマへと進展していった。そうした流れに沿い、当方にも地政学的な見解をと振られたので、このときに話したことを記すことにした。

早速話の中で、ある方が言った。

「半島がもつ地理的な宿命」という一言をキーワードに、そしてそれに関したある本も紹介したのでとことわり、まずは各位に『悪の論理』(倉前盛道著 角川文庫 一九八〇)という本を知っていますか? と聞いたところ、知ってはいるが読んだことはないのと。ちょうど知人に貸すために持参していた同著の該当箇所を開示し、私の解説を聞いて

もらつた。本会の読者の方々も本稿の引用文は地理教材の一環に加えて、政経や現社の参考資料にもなることをご理解のうえ以下をお読み願いたい。

註①「海洋勢力と大陸勢力の均衡

朝鮮半島の運命 大陸に接する半島は、古来、大陸勢力と海洋勢力の角逐の場となりやすく、戦火に巻き込まれることが多い。朝鮮半島は典型的な例であり、シナ帝国の勢力が強大化すれば、半島の南端まで大陸勢力の支配下に置かれ、沖合の海洋国日本の力が増大すれば、この半島南部を勢力下に置こうと進攻した。

朝鮮半島をめぐる日本と中国の抗争は、この図式の繰り返しであり、その古さは神話時代にまでさかのぼる。

また、この半島を経由して、多くの人々が日本へ避難したり、渡来したりしてきた。それとともに多くの文物も、もたらされた。また、この半島に海の方からもたらされたものも多い。稲作技術など南方から海路でもたらされたと思われる。

半島の特性は大陸と海洋勢力が伯仲するときは、半島の中間部で二つに分断される傾向をもつことである。現在、南北に分断された朝鮮半島の姿もその一例である。

マレー半島も海からきたマレー人回教徒と、大陸側のタイの仏教徒の勢力が半島の真ん中あたりで均衡し、二つに分断されている。

イベリア半島も、北アフリカから海を渡ってきたサラセンによって征服され、数百年の久しきにわたって、スペインはサラセンの領域であったが、のちにカンリツク軍によって押し返される。

半島は海に三方を囲まれているために、海洋的性格も濃いが、陸路で大陸につながっているため、大陸に強国が登場すれば、必ずその政治的弾圧を被り、それを阻止することは容易ではない。蒙古の侵入と数十年にわたって戦いながら、ついにその侵略を阻止できなかった高麗と、二回にわたる蒙古軍の大侵入を阻止した日本との相違は半島国と海洋国の相違である。英国も海島国のため、ナポレオンのフランスと、ヒトラーのドイツという二つの大陸帝国の侵入を阻止することに成功した。しかし、イタリアは半島のため、ナポレオンとヒトラーの制圧下におかれた。

海洋国家は多分に「むら気」であり、大陸国家のように「頑固一徹」ではない。南ベトナムは米国の「むら気」のために見捨てられた。韓国も同じように米国の「むら気」によって見捨てられる可能性は十分に残っている。

その中で生き残るためには、強力な報復力をもつこと以外に道はない。それはフランスのように核武装するしかないが、果たして韓国がフランスのように自主核武装する技術力と経済力をもっているか否か。朝鮮半島の今後の運命は、この点にかかっている。

韓国に対して、フランスが核武装に必要な技術の提供を申し入れていたという説があるが、これは単なる流説とは思われない。「韓国はすでに核兵器生産の基本的技術は有している。」とこのように記している。韓国ではなく北朝鮮の核武装が正に現実となった。今、要は我が国の危機のルーツは、しばしばこの半島からという現実を、再認識してもらうための引用であった。同様な話を別な会でも話したところ、ある方から引用された文中の「蒙古の侵入と数十年戦いながら、ついにこれを受けてこの方が、この元寇では敗れた高麗が元軍侵攻の前衛先兵として、かの唱歌の『多々良浜辺の戎夷』となり来寇したこと。さらにこの半島の背後に控える大陸二国による半島の二国へのアプローチ背後で半島の二国を操る―これを懸念しているとの発言もあった。

さらに『悪の論理』は現在では入手に手間が掛かるので、何か新刊で同じような参考になる本？との要望があったので、今年五月刊で『図解いちばんやさしい地政学の本』(二〇一九〜二〇二〇年版 沢辺有司著 彩図書刊 定価税込九五〇円)をお薦めする。その中の第七章「大国の情勢を映すアジアの地政学の第一節 大国のバッファゾーンとして機能する朝鮮から第七節、シー・パワーの島国 日本」の脅威は常に大陸にある」までが今回のテーマと重なり参考になる。

因みにバッファゾーンとは、緩衝国、緩衝地帯、緩衝バネ等の、対立する物の間にあって、衝突やアンバランスをやわらげるものと言う。アジアではモンゴルやタイそしてかつての満州国などもそれにあたるといえよう。それではこの辺りを、この本の該当頁から見てみよう。

註①「朝鮮半島の地政学的な意味を考えてみましょう。」
中国大陸から海洋につきでた朝鮮半島は、各国のパワーがせめぎあうバッファゾーンになります。中国にとっては日本やアメリカなど海洋からの侵略を防ぐため、日本にとっては中国の歴代帝国や南下するロシア(ソ連)からの侵略を防ぐバッファゾーンとなりました。

たえず大国が侵入してきて戦場と化する宿命にある朝鮮半島の歴史は悲惨で、その行き着く先が南北分断という形にあらわれています。

註②『悪の論理』一六、半島の宿命―朝鮮半島の行方―の一七〇〜一七一頁。

註③『図解いちばんやさしい地政学の本』第七章第一節第一項、朝鮮半島は戦場となる宿命!?の二〇六頁。

令和元年熱い夏

先田 賢紀智

今年の夏も過ぎたが慶事が二件。一つは東

(会員)

京都教師会の佐藤健二会長の『時代を動かした天皇の言葉』（グッドブックス）の出版。先生の御専門分野である「みことのり」を現代から捉え解釈された本である。

今一つは教師会の全国大会。平成二八年は岐阜、二九年は大阪、三十年が東京、そして今年度は岐阜。記念講演は「モラルサイエンスに基づく新たな道徳教育学の樹立をめざして」麗澤大学特任教授高橋史郎先生。先生の御人徳のお蔭で、例年にも増して参加者が多く実り多いものであった。

詳細はまたの機会に譲り、会場に辿り着く途中のことについて述べたい。岐阜駅から会場は建物が一続きになっており、会場近くの通路を利用した平和団体の展示会があった。八月一五日前後の年中行事である。これを目にした教師会のある方は「不愉快だから見ないことにしている。」と言われた。私は有難く鑑賞した。ヒロシマ・ナガサキの惨状、核兵器禁止条約など等。

この人たちは現実を見ているのかしら。ヒロシマ・ナガサキはアメリカで叫んで下さい。落としたのは日本じゃありません。日本人は「はだしのゲン」も「長崎の鐘」も不幸を乗り越えて現在の繁栄を築いています。「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませぬから」と過去を水に流し、他人様を責めるのではなく、前を向いて生きる民族です。健気な民族です。原水爆禁止は北へ行って叫んで下さい。朝鮮民主主義人民共和国と看

板を掲げている国なので話せば分るでしょう。

この展示会で再認識できたことがあった。赤旗新聞から抜き出したような世界地図が展示されてあった。核兵器禁止条約に賛成した百二十二の地図である。そこには米ロを筆頭とする核保有国がない。因みにあの金王朝はこの禁止条約に賛成していたが、核実験に成功すると脱退した模様。

核兵器に反対するのであれば最大の保有国の米ロ、そして最新の保有国に向かって叫ぶが良い。九条を全面に押し立て「武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」と。

話は飛ぶが、九月一日、関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式なるものに初めて出かけた。所は都立横網町公園。園内には関東大震災、大東亞戦争中の東京大空襲等の犠牲者、約十六万三千人の遺骨が納められた東京都慰霊堂がある。さて最寄駅を降りるとハンドマイクを持った姉さんが朝鮮人犠牲者慰霊への参加呼びかけをしている。日本人に虐殺された朝鮮人、その数六千人という。その姉さんに伺った「貴女は朝鮮人ですか、在日ですか」と。「違う」と言う。そんな昔の事より「今そこにある危機」に立ち向かったらどうだ。「金さん」に原爆実験やら飛翔体発射は止める、と言ってくれたらすぐに賛同するのだが、という様な話をしたが、平行線。

駅から公園までの通りは出店が並び、お祭り騒ぎ。「慰霊祭」なのにこの商魂の逞しさに呆れる。さて、園内にある東叡山寛永寺で秋季慰霊大法要が執り行われた。春季は東京大空襲の三月。秋季は関東大震災の九月だから年二回。受付で記帳し、「御供物 東京都慰霊協会」の表書きの葛湯を頂いたついでに地元の方々に「例年賑やかですか」と伺うと「今年は佳子内親王殿下のお出ましがあるから一際です」とのこと。

同じ境内で「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼集会」に七百人が参加。参列者に「朝鮮人ですか。在日ですか」と聞いて回った。皆が「日本人です」とのご返事。そこをすり抜け数十メートルで「六千人虐殺の濡れ衣を晴らそう」「六千人虐殺は捏造・日本人の名誉を守ろう」とする「真実の慰霊祭」が営まれた。ここへの入り口には立ち入り禁止の黄色いテープ。警備の警察官に参加したい旨を告げると中へ入れてくれる。警察官が数名配置され、まるで事件現場の物々しさ。慰霊祭の身は看板通り。だが参加者は朝鮮人追悼集会の十分の一程。「ここは日本国である。朝鮮人追悼集会が堂々と開かれる一方、日本人の名誉を守る集会がなぜコソコソと」と悲しくなった。終了後もあっちの集団と接触しないようにとのご配慮か、警察官に前後左右を両国駅まで警護（誘導か護送か監視か）された。

(会員)

戦前の中学国語の教科書を読む(十)

「次の文章は、『現代國語讀本 卷三』(八波則吉編著 昭和十年版)所収。学年では現在の中学二年前期に当たる。表記は原則原文のままである。漢字は正字であるが、正字への変換ができないものは、常用漢字体で示した。読み仮名は適宜新たに加へた。」

國史に返れ

徳富蘇峰

「國史に返れ」。日本國の歴史は大和民族の系圖である、吾人祖先の功科表である、日本帝國の寶庫である、日本國民の經典である。日本國を知るには、國史を透して知るより他に方便がない。國史は實に忠實な案内者である、信頼すべき指導者である。

吾人は歴史的に考慮せねばならぬ。すべての人類は平等觀よりすれば皆同胞である。しかし、歴史觀よりすれば、すべての國は皆特殊の性格を具へてゐる。甲國と乙國とは同じでなく、乙國と丙國とは違ひ、而して丙國と甲國ともまた同じでない。十箇國あれば十箇國の相違があり、百國あれば百國の差異がある。この特殊の國性を維持する上に於て、始めて獨立國の意義が完うされる。獨立國の本義は形式的に他の干渉を絶ち、我が自主の體面を保つのみではない。精神的に自主であらねばならぬ。詳らかにいへば、精神的に自國の國性を把持し、保存し、開展し、發達させ

ねばならぬ。

我が大和民族の誇は日本の歴史である。この歴史の中には、必ずしも悉く皆正しいことと善いことのみが満ちてはゐない。必ずしも悉く敬ふべく仰ぐべきことのみが溢れてはゐない。人間は決して神様ではない。人間の所作にはさまざまの過失もあれば罪惡もある。しかし、總括していへば、日本の歴史は決して大和民族の恥辱史ではなく、光榮史である。

いかに日本の皇室が世界に比類のない皇室であるかは、國史が最も雄辯にこれを語つてゐる。いかに日本の國民がその一旦緩急の際に處して、護國の精神に猛烈に且勇敢であつたかは、國史がその證人である。いかに大和民族のうちに世界的偉人と比較して一步も劣らぬもの、即ち彼自身また世界的偉人と稱するに足るものを生じたかは、長い年代のうちに屢接觸したところである。即ち我が明治天皇の盛徳大業も、國史の背景によつて始めて明白に、精詳に、剴切これを會得することができる。國史の背景がなかつたならば、五箇條の御誓文の如きも、一種の雄快な文書たるに止まるだらうし、帝國憲法の如きも、單に乾燥無味な一部の法文に止まるであらう。

凡そ固陋頑迷な戀舊思想や、保守退嬰の島國根性や、若しくは詭激狂妄な赤化主義や、架空浮誇の模倣精神や、いづれも我が國史を閉却するからして起るのである。現状を守株するのも國史を知らないが爲、現状に不

安を感じるのも國史を知らないが爲、自惚根性で醉生夢死するのも國史を知らないが爲ではないか。

「國史に返れ」とは、すべての國民が歴史家となれといふのではない。それには専門の學者がある。たゞ日本國民として日本の歴史のその大いなる筋道を諒解せよといふのである。この歴史は精神的に於ける日本の潜在して居る寶藏である。いやしくも國民的に生活し且つ活動しようとするならば、まづこの寶藏に向つてすべてのものを求めるがよい。

(國民小訓)

(原注)

徳富蘇峰 名は猪一郎。熊本縣の人。文久三年生。文章家。歴史學者。貴族院議員。

五箇條の御誓文 明治元年三月十四日明治天皇が紫宸殿で神々に誓はせられた新政の方針五箇條。

帝國憲法 明治二十二年二月十一日發布。

(補注)

文久三年は一八六三年。

徳富蘇峰の弟は、小説家徳富蘆花。蘇峰には

歴史の大著として『近世日本國民史』

全百巻がある。

會費納入のお願い

年額 二千元

口座 「みずほ銀行」港北ニュータウン支店
店番号 743 普通預金 1330150
名義 佐藤健二